

「おいでよ！森のがっこうへ」（大学の森をたんけんしよう！）

事業代表者：宇都宮大学農学部森林科学科 教授 田坂聡明

構成員：宇都宮大学農学部森林科学科・附属演習林研究部主任 准教授 有賀一広

宇都宮大学農学部附属演習林 教授 小金澤正昭

宇都宮大学農学部附属演習林 准教授 飯塚和也

1. 事業の目的・意義

子供達の遊びの変化や都市近郊林の減少などにより、子供達が森林等の自然と触れ合う機会が減少している。

本事業では、様々な体験を通して私達の生活に必要な不可欠な森林、木材の価値や木材を供給する森林を育てることの大切さを気づかせる。それには技術や知識が必要であることを理解させる為、大学の有する施設・設備と教職員のノウハウを活用し、学びの機会を提供する。

2. 事業内容

(1) 林業機械操作体験

フォワーダ、タワーヤーダ及びプロセッサという高性能林業機械の操作を体験させる。様々な機械によって効率よく、また森を守りながら伐採する技術を理解させたい。想像や映像とは違い林業機械が動くことを実際に見たり、自らが操作体することにより、日常ではなかなか知ることのできない職種への興味関心を持つことができる。

また、様々な木製物品に触れることがあっても、それがどのように作成されているかについて知る機会を得ることは難しい。木材からの加工ではなく、樹木自体がどのように伐採されているのかを知ることができる貴重な機会である。



図1. 高性能林業機械の操作体験



図2. 高性能林業機械の操作体験

(2) 木工体験

演習林の間伐材（スギ）等を利用していくつかの制作物を例示し、ノコギリやカナヅチ等を使い、自力で作成する。一見簡単な製作品品に見えても、独力で作成することにより、日常では触れることのない工具の必要性を理解できる。また、ノコギリの使い方や釘を打つ方向の理由など、製品とその製作について様々な要因にて成り立っていることを知る。

単につくるだけでなく、自分で製作した達成感を覚え、思い出の品となった。



図3. 木工体験

(3) キャンドルファイアー

ジュニアリーダー（中学生）指導の下、炎を囲んでの儀式を行った。その中で歌い、踊り、笑い、楽しむ活動は感性豊かな子ども達の心を開き、共に感動を味わう絶好の機会であった。



図4. キャンドルファイアー

3. 事業の成果

児童達は、演習林の施設・設備等を活用して自然と触れあうことにより、普段何気なく使用している木材の成り立ちや、林業に興味・関心をもち、質問が大変多かった。

この事業により、様々な職業と付随する技術が必要で

あることを理解し、森林や木材の価値を気付かせ、木材を供給する森林を育てることの大切さを知ることができる。

また、本事業においては塩谷町の協力の下で、ジュニアリーダー（中学生）を派遣してもらい、ジュニアリーダーからも子供達と触れあうことにより自らと違った視点からの発想などをうけることに大きな意義を見出していた。

附属演習林において行っている様々な教育・研究活動のうち、現在では林業を体系的に学べる施設・設備が備わっているのは他大学では類を見ない。これらの施設設備と豊かな自然を生かし、現代では都市部のみならず町村部においても都会的生活しか体験していない子ども達に、自然や林業を体験学習する機会を提供し地域に貢献することで、見識を広げる効果があった。

これをさらに発展させ、より自治体等と連携し、学びの機会を提供していきたい。